

■ 株主優待サービスのご案内

このたび、マネックス証券株式会社より、当社の個人株主様向けのサービスが提供されることになりましたので、ご案内申し上げます。

本サービスは、マネックス証券独自の提案によるものであります。

ご興味のある株主様は、同封の『株式買い手数料無料』優遇券を、マネックス証券株式会社へご返送いただきますようお願い申し上げます。

※本サービスに関するお問合せは、マネックス証券株式会社コールセンター（優遇券に記載）までお願いいたします。

■ 株主の皆様へ アンケートご協力のお願い

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただき、会社と株主の皆様とのコミュニケーションの充実を図るためアンケートを実施させていただいております。大変お手数ですが、皆様の率直なご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

<回答方法>

同封いたしておりますアンケート葉書の質問事項をご回答いただき、**平成18年8月31日**までにご投函くださいますようお願い申し上げます。

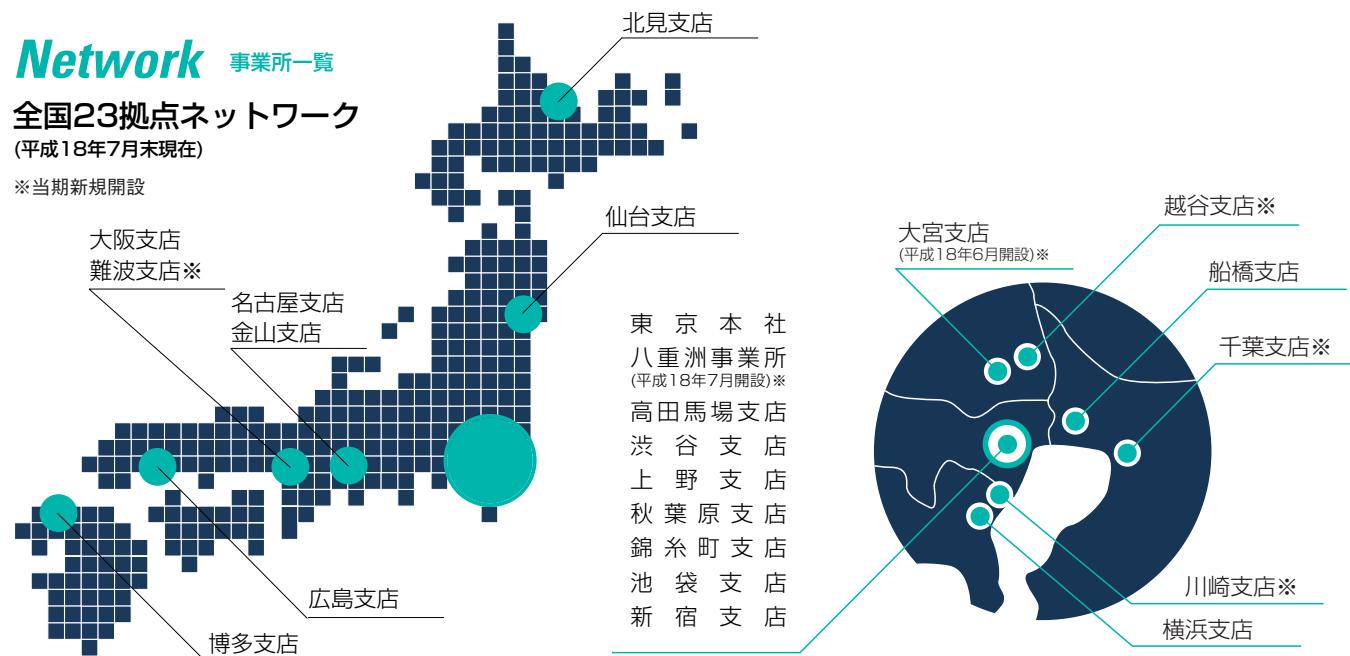
なお、本アンケートでご回答いただきました内容は、今回の目的以外に使用することはありません。

Network 事業所一覧

全国23拠点ネットワーク

(平成18年7月末現在)

※当期新規開設



第7期 中間事業報告書

2005年12月1日から2006年5月31日まで



本紙は、環境に優しい古紙配合率100%再生紙と、大豆油インキを使用しております。

株式会社エスプール

(証券コード：2471)

To Our Shareholders

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

おかげさまでもちまして平成18年2月10日、大阪証券取引所「ヘラクレス」市場に株式を上場いたしました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

また「企業変革を支援し、日本を元気にする」というビジネスミッションにご賛同いただくとともに、当社グループの将来性にご期待いただき心より御礼申し上げます。

今後とも中長期的な事業発展に一丸となって邁進する当社グループに、厚いご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

代表取締役会長兼社長 浦上 壮平

Financial Highlights

決算ハイライト

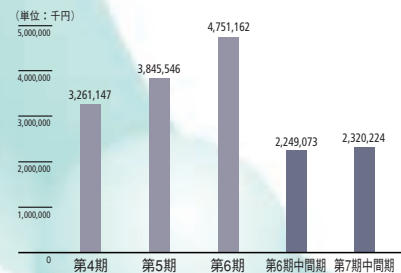
低採算プロジェクト見直しで売上総利益率改善に注力し、売上微増ながら、営業利益が大幅増益。

物流軽作業やコールセンター需要増を背景に、総合人材アウトソーシング事業が10%成長を達成。

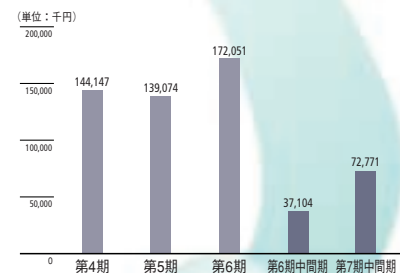
店頭営業支援は、ブロードバンド販促縮小し、次期商材との境界期に入り減速傾向。

公募増資等で自己資本大幅増強。

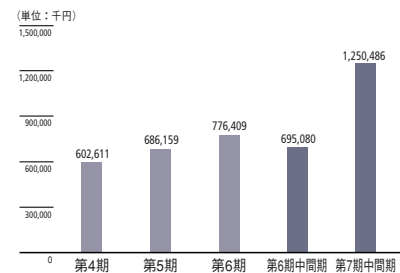
連結売上高



連結経常利益



連結純資産額



Top Interview

トップインタビュー

“人知”により“成果”を提供するパートナー。 『企業変革支援アウトソーサー』として 企業価値を高めていきます。

Q 当中間期の業績は
いかがでしたか。

上場を機に成長が加速。前年同期比
178%の純利益を達成しました。

おかげさまで、平成18年2月には大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」への株式上場を果たすことができました。

当社グループの中核会社である「株式会社エスプール」の総合人材アウトソーシング事業に関しましては、利益率を重視した経営を心掛けた結果、営業利益は実に前年同期比326%を達成することができました。

また、平成18年4月にはパフォーマンス・コンサルティング事業を分社化して「株式会社エスプール総合研究所」を設立し、業績も順調に推移しています。

当社グループの当中間期の連結売上高は23億2千万円、連結経常利益は7千2百万円となり、連結中間純利益も4千1百万円と前年同期比178%を達成するなど、過去最高収益記録を更新する勢いを示しました。

平成18年5月現在、当社の拠点数は、1店を統廃合した結果、21拠点となり、

約100カ所の現場において短期雇用のスタッフ4,307名、現場リーダー及びスーパーバイザー400名が活躍しております。

上場を機に、これらの経営資源の強化を図るとともに、人材、研修、マーケティングの各事業のシナジーを一層高めることで、『企業変革支援アウトソーサー』としての企業価値を一層向上させていきたいと考えています。

Q エスプールの事業の優位性
についてお聞かせください。

お客様とビジョンを共有し「成果」を追求するパートナーです。

「株式会社エスプール」が行う人材アウトソーシング事業が、他の多くの人材派遣会社と異なる点は、どこまでも「成果」を追求するアウトソーシングサービスであることであり、これが最大の優位性です。これを支える強みが、現場リーダーが指揮する「グループ型派遣」や「成果報酬主義」、また、インターネットや携帯電話を用いた効率的なオペレーションです。

一般の人材派遣会社で採用されている時給による契約形態は、ウエイトレ

人材、研修、マーケティング…3つの事業の連携により、 企業変革に必要な資源をワンストップで提供します。

スや警備員のような一定の時間拘束が価値を生む仕事では有効な契約形態と言えます。

しかし、倉庫業務や伝票業務のような作業系の仕事や営業系の仕事では、「成果」という価値が問われ、生産性重視の契約が求められて当然といえます。

「株式会社エスプール」では、独自

のバランス・スコアカードを使った研修を通して、業務プロセス改善等についてのノウハウを現場リーダーや契約スタッフに教育し、派遣しています。例えば、倉庫業務においては入荷作業の平準化や運送の効率改善を提案するなど、全体的な効率性向上を第一義に置いた人材派遣サービスを展開しています。

契約の形態も出来高契約やコストダウンのレベルに応じた成果報酬型の契約を結ぶなど、あくまでお客様とビジョンを共有した上で、的確なソリューションを提供する『ビジョナリーアウトソーシング』を実現しています。

一般の人材派遣会社の多くが“人員提供サービス”に留まっているのに対し、「株式会社エスプール」では“人知を提供するアウトソーシングサービス”を展開することによって、後発ながらも高い優位性と差別化を実現しているのです。

た付加価値の高い各種研修プログラムを提供することで、高い収益性と、成長性が期待されます。

同社の代表取締役社長には「株式会社エスプール」の前COOである吉村慎吾が就くことで、積極的な事業拡大を図ってまいります。

これに伴い、3月1日より、私浦上社平がグループの中核会社である「株式会社エスプール」の会長及び社長を兼務することとなりました。

企業の研修及びマネジメントコンサルティングを担う「株式会社エスプール総合研究所」を軌道に乗せることで、マーケティング調査及び携帯電話コンテンツを作成するモバイル・マーケティング事業、また人材アウトソーシング事業とのコラボレーションを強化し、企業変革に向けた多様なサービスをワンストップで提供する『企業変革支援アウトソーサー』として、より付加価値の高い事業展開が可能となります。

特に、「株式会社エスプール・マーケティング」や「株式会社エスプール総合研究所」のクライアントは優良企業が多いので、今後は、人材アウトソーシングを含めたクロスセル展開を積極的に推進していく考えです。



株主の皆様へのメッセージ
をお願いします。

「トリプルワンビジョン」の5年以内の達成を目指します。

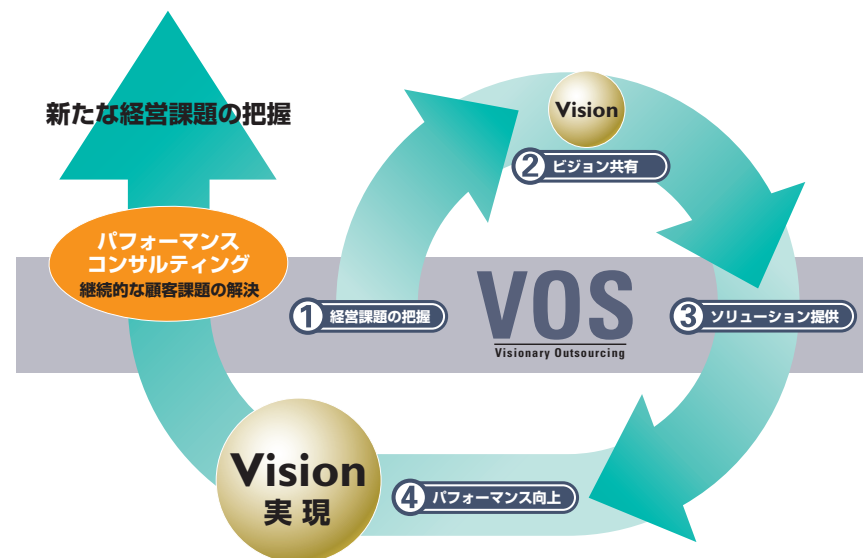
当社グループでは、今後5年以内にグループ売上高100億円達成を目指す「トリプルワンビジョン」を掲げています。ただし、数値目標だけにこだわるではありません。社員が誇りを持って働くことができれば、業界No.1の給与水準を達成でき、お客様にも信用されて、日本No.1のビジネスパートナーへの道が開かれるのです。その結果が100億円の売上達成に直接結びつくことになると考えています。

最も大切なことは、社員・スタッフが自分の仕事に誇りを持って取り組むことです。これがクライアントの期待を超える成果を生みだします。その意味でも、今回の上場は今後の飛躍の起爆剤の役割を果たすものと確信しています。

株上市場してから3カ月目にあたるこの中間決算は、おかげさまで着実な成果をお見せすることができました。これからの下期、そして来期にかけては、上場の効果をより明確に示せるように全力疾走していきますので、どうかご期待ください。



<事業戦略> 継続的な顧客課題の解決による企業成長



長期的な成長に向けた
戦略をお聞かせください。

3つの事業の連携を強化し、 企業変革力の向上を図ります。

当社グループでは、これまで「株式会社エスプール」で行っていたパフォーマンス・コンサルティング事業を一層強化・拡充するべく、平成18年4月に、同事業に特化した「株式会社エスプール総合研究所」を分社いたしました。

企業の人材のレベルアップに向けた研修ニーズの高まりの中で、アメリカのスコット・シマー博士が開発し

エスプールの 「トリプルワンビジョン」 5年以内に以下の達成を目指します

- グループ売上高100億円超
- 日本No.1のビジネスパートナー
- 業界No.1の給与水準を獲得し、
生き生きと誇りをもって働く社員

現金及び預金

平成18年2月の公募増資により、手取資金322百万円を調達いたしました。拠点展開やシステム増強のための設備資金、教育投資等の運転資金に充当予定です。

純資産合計

平成18年2月公募増資及び新株引受権行使により、資本金が191百万円、資本剰余金が258百万円それぞれ増加し、自己資本比率は75%になりました。

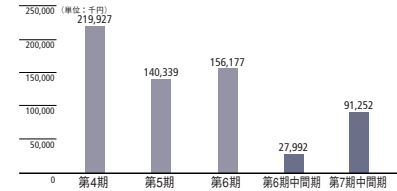
営業利益

低採算プロジェクト見直しにより売上総利益率の改善に努める一方、募集費用や管理費等の経費効率化により、経費増加抑制を図った結果、営業利益は大幅増益を達成いたしました。

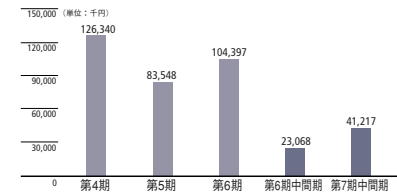
中間純利益

営業外費用として上場関連費用26百万円を計上し、法人税等負担額も増加しましたが、当中間純利益は増益となりました。

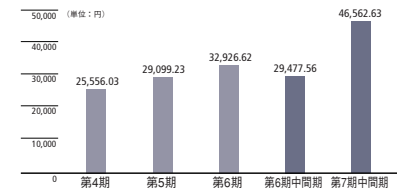
連結営業利益



連結純利益



1株当たり連結純資産



中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科 目	第7期中間期	第6期中間期	第6期
	平成18年5月31日現在	平成17年5月31日現在	平成17年11月30日現在
資産の部			
流動資産	1,430,841	892,588	1,057,544
固定資産	216,891	215,125	202,813
有形固定資産	31,383	34,744	29,688
無形固定資産	59,540	76,821	69,822
投資その他の資産	125,968	103,559	103,302
資産合計	1,647,733	1,107,713	1,260,357
負債の部			
流動負債	397,247	412,632	481,514
負債合計	397,247	412,632	481,514
少数株主持分			
少数株主持分	—	—	2,432
資本の部			
資本金	—	393,000	393,000
資本剰余金	—	207,200	207,200
利益剰余金	—	94,880	176,209
資本合計	—	695,080	776,409
負債、少数株主持分及び資本合計	—	1,107,713	1,260,357
純資産の部			
株主資本			
資本金	584,730	—	—
資本剰余金	465,671	—	—
利益剰余金	197,383	—	—
株主資本合計	1,247,785	—	—
新株予約権	50	—	—
少数株主持分	2,650	—	—
純資産合計	1,250,486	—	—
負債純資産合計	1,647,733	—	—

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

中間連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	第7期中間期	第6期中間期	第6期
	平成17年12月1日から平成18年5月31日まで	平成16年12月1日から平成17年5月31日まで	平成16年12月1日から平成17年11月30日まで
売上高	2,320,224	2,249,073	4,751,162
売上原価	1,671,058	1,669,514	3,513,845
売上総利益	649,166	579,558	1,237,316
販売費及び一般管理費	557,914	551,566	1,081,139
営業利益	91,252	27,992	156,177
営業外収益	8,800	10,479	20,503
営業外費用	27,281	1,367	4,629
経常利益	72,771	37,104	172,051
特別利益	2,349	346	2,558
特別損失	1,714	383	2,185
税金等調整前中間(当期)純利益	73,406	37,067	172,424
法人税、住民税及び事業税	31,837	12,223	71,182
法人税等調整額	133	1,775	△ 3,156
少数株主利益	218	—	—
中間(当期)純利益	41,217	23,068	104,397

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	第7期中間期	第6期中間期	第6期
	平成17年12月1日から平成18年5月31日まで	平成16年12月1日から平成17年5月31日まで	平成16年12月1日から平成17年11月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,686	10,262	142,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,227	△ 28,246	△ 21,563
財務活動によるキャッシュ・フロー	429,790	15,852	△ 12,288
現金及び現金同等物の増減額	404,876	△ 2,131	108,501
現金及び現金同等物の期首残高	484,893	376,391	376,391
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	889,770	374,260	484,893

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

中間連結株主資本等変動計算書

(第7期中間期 平成17年12月1日から平成18年5月31日まで)

(単位:千円)

科 目	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
平成17年11月30日残高	393,000	207,200	176,209	776,409	417	2,432	779,260
中間連結会計期間中の変動額							
新株の発行	191,730	258,471	—	450,201	△ 367	—	449,833
剰余金の配当	—	—	△ 20,043	△ 20,043	—	—	△ 20,043
中間純利益	—	—	41,217	41,217	—	—	41,217
少数株主利益	—	—	—	—	—	218	218
中間連結会計期間中の変動額合計	191,730	258,471	21,174	471,375	△ 367	218	471,226
平成18年5月31日残高	584,730	465,671	197,383	1,247,785	50	2,650	1,250,486

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

中間単体貸借対照表

(単位:千円)

科 目	第7期中間期	第6期中間期	第6期
	平成18年5月31日現在	平成17年5月31日現在	平成17年11月30日現在
資産の部			
流動資産	1,318,554	830,761	979,809
固定資産	268,646	247,183	240,536
資産合計	1,587,201	1,077,945	1,220,345
負債の部			
流動負債	379,324	395,532	469,912
負債合計	379,324	395,532	469,912
資本の部			
資本金	—	393,000	393,000
資本剰余金	—	207,200	207,200
利益剰余金	—	82,212	150,233
資本合計	—	682,412	750,433
負債及び資本合計	—	1,077,945	1,220,345
純資産の部			
株主資本			
資本金	584,730	—	—
資本剰余金	465,671	—	—
利益剰余金	157,426	—	—
株主資本合計	1,207,827	—	—
新株予約権	50	—	—
純資産合計	1,207,877	—	—
負債純資産合計	1,587,201	—	—

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

中間単体損益計算書

(単位:千円)

科 目	第7期中間期	第6期中間期	第6期
	平成17年12月1日から平成18年5月31日まで	平成16年12月1日から平成17年5月31日まで	平成16年12月1日から平成17年11月30日まで
売上高	2,221,702	2,147,710	4,570,197
売上原価	1,610,051	1,602,308	3,393,879
売上総利益	611,650	545,402	1,176,317
販売費及び一般管理費	531,446	530,757	1,040,656
営業利益	80,204	14,644	135,661
営業外収益	591	670	912
営業外費用	27,281	1,367	4,558
経常利益	53,514	13,948	132,014
特別利益	2,374	368	2,562
特別損失	—	383	1,613
税引前中間(当期)純利益	55,889	13,933	132,964
法人税、住民税及び事業税	28,150	7,302	63,730
法人税等調整額	503	1,232	△4,185
中間(当期)純利益	27,235	5,398	73,419
前期繰越利益	—	76,813	76,813
中間(当期)末処分利益	—	82,212	150,233

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

中間株主資本等変動計算書 (第7期中間期 平成17年12月1日から平成18年5月31日まで)

(単位:千円)

科 目	株主資本				新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
平成17年11月30日残高	393,000	207,200	150,233	750,433	417	750,850
中間会計期間中の変動額						
新株の発行	191,730	258,471	—	450,201	△ 367	449,833
剰余金の配当	—	—	△ 20,043	△ 20,043	—	△ 20,043
中間純利益	—	—	27,235	27,235	—	27,235
中間会計期間中の変動額合計	191,730	258,471	7,192	457,394	△ 367	457,026
平成18年5月31日残高	584,730	465,671	157,426	1,207,827	50	1,207,877

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

2006/02

大阪証券取引所「ヘラクレス」市場に上場いたしました



平成18年2月10日、株式会社大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」(スタンダード基準)に、本年第一号銘柄として、株式上場いたしました。証券コードは、2471です。

また、平成18年3月6日より制度信用銘柄(非貸借銘柄)に選定されております。

2006/04

パフォーマンス・コンサルティング事業を分社化

平成18年4月28日、パフォーマンス・コンサルティング事業を会社分割し、当該事業を当社が新設した「株式会社エスプール総合研究所」に継承させました。

当社グループの強みである企業研修や人事・経営コンサルティング事業の成長スピードを上げるためには、独立した経営責任のもと、迅速かつ柔軟な人事・労務施策や経営意思決定を行う必要があり、中長期成長戦略の一環として、分社化いたしました。



中堅社育向研修風景

2006/04

人材派遣健康保険組合に編入

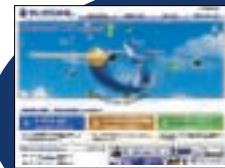


平成18年4月1日付けで、人材派遣健康保険組合より編入のご承認をいただきました。

人材派遣健康保険組合は、国内大手の一般事務派遣会社を中心に設立された国内最大規模の健康保険組合で、加入事業所数365事業所、被保険者378,381人です(平成18年5月末現在)。今回の編入によって、被保険者の方々の福利厚生充実が図られるだけでなく、派遣スタッフ及び当社の社会保険料負担軽減、派遣スタッフ登録促進への寄与が見込まれます。

株主メモ

事業年度 毎年12月1日から翌年11月30日まで
 定時株主総会 毎年2月開催
 基準日 定時株主総会 毎年11月30日
 期末配当金 毎年11月30日
 中間配当金 毎年5月31日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
 株主名簿管理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
 住友信託銀行株式会社証券代行部
 郵便物送付及び電話照会先 〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社証券代行部
 住所変更等用紙のご請求：0120-175-417
 その他のご照会：0120-176-417
 ホームページ <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
 同取次場所 住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店
 公告掲載新聞名 日本経済新聞
 上場証券取引所 大阪証券取引所「ヘラクレス」市場



ホームページのご案内
 当社の事業活動、サービス案内、
 投資家情報などに関する詳しい
 情報をご覧いただけます。

<http://www.spool.co.jp/>

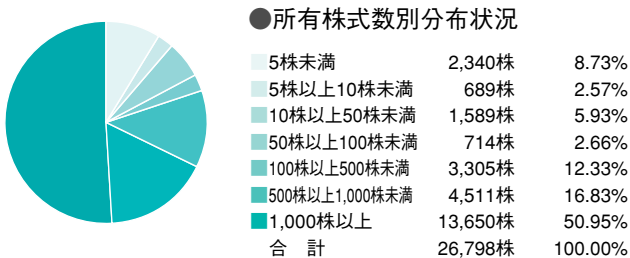
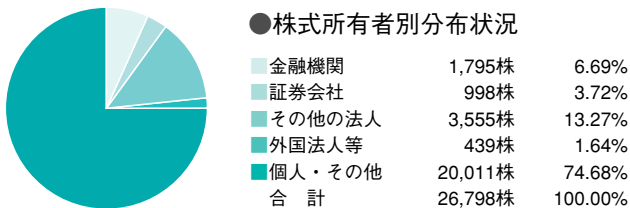
株式の状況 (平成18年5月31日現在)

発行可能株式総数 100,320株
 発行済株式の総数 26,798株
 株主数 1,775名

大株主 (平成18年5月31日現在)

株主名	持株数	持株比率	当社への出資状況
浦上 壮平	5,682株	21.20%	
吉村 慎吾	5,058株	18.87%	
インキュベイトキャピタル パートナーズ投資事業組合	1,710株	6.38%	
株式会社クレディセゾン	1,200株	4.48%	
佐藤 英朗	951株	3.55%	
日本生命保険相互会社	840株	3.13%	
石田 敦信	807株	3.01%	
山森 達也	718株	2.68%	
中村 勝人	634株	2.37%	
松井証券株式会社(業務口)	561株	2.09%	

株式分布状況 (平成18年5月31日現在)



会社概要 (平成18年5月31日現在)

会社名 株式会社エスプール (S-Pool, Inc.)
 創立 平成11年12月1日
 資本金 584,730,312円
 従業員 180名(うち契約社員・アルバイト86名)
 本社 東京都中央区日本橋2-15-3
 グレイスビル日本橋2階
 TEL.03-3517-6633(代表)

主なグループ会社紹介

■ モバイル・マーケティング事業

 (株) エスプール・マーケティング

設立 平成15年6月
 代表取締役社長 山森 達也
 資本金 11百万円

当社連結子会社(株)エスプール・マーケティングは、移動体通信事業者・消費財メーカー向けに、新商品マーケティング調査・販促企画業務を行っております。同事業で得たモバイル・マーケティングに関するノウハウを活かして、(株)ケータイソリューション(現在、当社持分法適用会社)を設立し、同社ではモバイルコンテンツの企画・開発、(株)NTTドコモ及びKDDI(株)の公式コンテンツサイトの運営を行っております。



役員 (平成18年5月31日現在)

代表取締役会長兼社長 浦上 壮平
 取締役 吉村 慎吾
 社外取締役 赤浦 徹
 常勤監査役 藤井 満
 監査役 畑中 裕
 監査役 吉岡 勇
 執行役員 中村 勝人
 執行役員 石田 敦信
 執行役員 佐藤 英朗
 執行役員 高倉 秀穂

■ パフォーマンス・コンサルティング事業

 (株) エスプール総合研究所

設立 平成18年4月
 代表取締役社長 吉村 慎吾
 資本金 10百万円

パフォーマンス・コンサルティングとは、継続的に高いパフォーマンスを生み出せる組織への変革を支援することです。当社連結子会社(株)エスプール総合研究所では、「パフォーマンス・コンサルティング」を切り口に、米国心理学者スコット・シマーマン博士の意識改革及び能力開発理論に基づく企業研修事業や、人事マネジメント・企業再生コンサルティングを展開しております。

